

経営方針推進プログラムに係る指標の設定について（案）

1 現再構築プランの評価上の課題

現在進捗管理を行っている第3次改革推進プログラムで設定している各指標について、これまで庁内や行財政再構築推進委員会から、成果を図れるものになっていないのではないかとといった指摘を受けてきた。以下、課題と今後の方向性についてまとめる。

(1) 指標の設定の仕方についての課題

- ・ 現行では、来場者数や参加者数、検討した件数等、活動指標となっているものが多く、その先の成果までの評価ができていない。
- ・ また、指標を達成してA評価（予定どおり進捗）となったものの、本来の取組趣旨と照らし合わせると目的の達成にどの程度貢献できたか明確になっていない。
- ・ しっかり取り組んでいても、指標未達成となっていることによって、B評価（遅れている）となるものがある。
- ・ 経常収支比率80%台等、そもそも達成が相当困難な事を指標としているものもあり、指標の意義が薄いものがある。
- ・ 目標値の設定の仕方がまちまちである。（単年度又は複数年度、目標値固定又は前年度以上等）

(2) 進捗管理についての課題

- ・ 年度途中の中間進捗では、まだ実績が出ていないため、成果に対する評価ができない。よって取組が予定どおり進められているかどうかのみの評価としており、その結果ほとんどの取組でA評価（予定どおり進捗）となる。
- ・ 単年度で成果を図れるものと、より長期的な視点で評価するものが混在しているが、全てについて年2回の進捗管理を行っている。

2 経営方針推進プログラム策定にあたっての指標の考え方

上記の課題を踏まえ、新しいプログラムにおいては以下の内容で指標の設定が可能か、今後検討する。

(1) 指標の設定の仕方についての検討案

- ・ 「活動指標」は具体的な活動内容を把握するために有効なため、指標として残す。
- ・ それとは別に「到達目標」を設定する。これについては、全てを数字で設定することが困難なため、数値化できないものに関しては、定性的な評価項目を設定してはどうか。

(2) 進捗管理についての検討案

- ・ 従来どおり、上半期・年度末の年2回の進捗管理を行う。
- ・ 上半期では、「活動指標」で進捗を図り、評価する。
- ・ 年度末では、「活動指標」、「到達目標に対する進捗度」を含め総合的に評価する。活動指標は達成していても、総合的に見て目標に及んでいなければ「遅れている」とする。

(3) プログラム個票の検討案

プログラムごとの個票には、目的・ねらいや取組内容等を記載するとともに、「活動指標」と、「到達目標」を記載する。